

誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン

令和 7 年 5 月 1 日現在 江戸川区立南新崎小学校

全国学力・学習状況調査		
A・B層の割合		
年度	国語	算数
令和 8 年度の目標	70.0%	70.0%
令和 7 年度の目標	68.0%	68.0%
令和 6 年度の結果	66.0%	64.0%
令和 5 年度の結果	61.0%	58.0%

令和 6 年度江戸川区学力調査結果		
A・B層の割合		
学年	国語	算数
第 6 学年	38.4%	44.2%
第 5 学年	51.9%	44.3%
第 4 学年	41.5%	57.3%
第 3 学年	44.6%	45.8%

 ともに、生きる。 江戸川区	目標達成に向けた取組		
	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	・校内研究を通して、教員が協働して学び合うことで教員一人一人の指導力向上を図る。 ・毎週一回、若手教員を対象とした指導力向上に向けた研修会を行う。 ・問題、めあて、自分の考え、まとめ、振り返り、学習感想等の板書カードを統一して使う。 ・問題解決型学習の流れを意識したノート指導法（板書計画）を作成し、全校で統一した指導を行う。	・学力調査の結果を基にした、指導を行うことで基礎学力の定着・習熟度を確保する。 ・朝学習では各学年の実態に応じた学習に取り組み、読解力の向上や基礎的な計算力の向上を図る。 - 低学年：多層指導モデルMIMの活用 - 中学年：国語読解ワークの活用 - 高学年：「よむYOMUワークシート」の活用 - 全学年：百マス計算等の計算問題に取り組む。	・スタディウィークの取り組みを通して、日常的な学習習慣の定着を図る。 ・スタディウィークの分析結果を保護者にフィードバックすることで家庭との連携を図る。 ・朝学習を計画的に実施することを通して、継続的に学習に取り組んでいく態度を育てる。
特に支援が必要な児童・生徒への手だて	・児童の言葉でめあてをたて、めあてに即した自力解決や、「どんなときでもつかえる」という視点に立ち集団検討をするなど問題解決型学習の授業展開を進める。 ・全員が自信をもって答えられる問題を授業中に数問取り組ませ、自己肯定感を高める。	・サポートとして、放課後補習事業者と連携して放課後補習教室実施する。 ・児童の実態に合った教材を用意し、個別に支援を行っていく。 ・タブレットを活用し、前学年の問題に取り組んだり、AIドリルから自分の課題に合わせた問題に取り組ませたりすることで、児童のつまづきに合わせた指導を行っていく。	・家庭との連携を図り、児童の実態に合わせた家庭学習にスモールステップで取り組ませていく。 ・学習カルテ等を活用し、ドリルパークに定期的に取り組む機会を設定する。 ・ドリルパークを活用し、前学年の問題から取り組ませることで「できる」という達成感を味わせることで、学習に取り組む意欲を高める。
成果指標	・江戸川区学力調査 国語 「自分の思いや考えを伝えようとしている」 「友達との交流を通して、自分とは違う考えをもとうとしている」 上記の肯定的な回答を5%以上向上（昨年度61.3%） ・江戸川区学力調査 算数 「解き方がわからない問題でも、これまでに学習したことを活用して論理的に少しずつ解こうとしている。」 上記の肯定的な回答を5%以上向上（昨年度80.2%）	・江戸川区学力調査 国語 単元「説明的な文章」（昨年度50.3%） 領域「話すこと・聞くこと」（昨年度59.8%） 上記の平均正答率を5%以上向上 ・江戸川区学力調査 算数 領域「数と計算」（昨年度68.2%） 領域「図形」（昨年度60.2%） 上記の平均正答率を5%以上向上	・本校スタディウィーク調査 「家庭学習に取り組んだ時間」 1 年生：20分以上 2 年生：30分以上 3 年生：40分以上 4 年生：50分以上 5 年生：60分以上 6 年生：70分以上 上記の通りに回答した児童が60%以上